

【中学部】テストや模試を活用しよう！

中1～2生であれば…塾で実施される志望校判定テストや定期テスト、学校での実力テストなど。
中3受験生であれば…上記の他に会場テスト(Wもぎ・Vもぎ)など。

皆さんはこれらのテストを受けた後、「受ける→結果(判定)見る→喜ぶ(ショックを受ける)→おしまい」にいませんか？いやいや…それではもったいないですよ！今月は、偏差値が出る会場テストを例にしてテストの一般的な位置づけを整理し、活用のしかたをレクチャーしたいと思います。

【会場テストや定期テスト・実力テストの実践活用法】

①判定だけではなく、どこが定着していないかを洗い出してくれるもの。

テストの帳票が返却されると、たいていの人は判定だけをみて一喜一憂します。気持ちは分かりますが、結果はくつがえりません。ここでは「今回は良かった or 悪かった」などより、どの科目のどの単元ができていなかったのかを確認しましょう。

②「できた！」と「あつた！」とは全くの別もの。

文字通りで「できた」=『いつ出題されても大丈夫』、「あつた」=『たまたま正解。ラッキー！』ということです。それらを分類するためにも、会場テスト(定期テストや実力テスト)を受ける際、自信のなかった問題には△印などを付けておくと復習の時に役に立ちます。

③復習は結果が返却される前までに終わらせよう。

テストが終わると会場で解説・解答が配付されます。通常帳票が返却されるまでに1週間程度かかりますが、復習はその間に済ませてしまうことをおすすめします。「分からないもの」をその意識があるうちに「分かるもの」にすることが重要です。定期テストの場合すぐに答えは配付されませんが、テスト返却から1週間以内をめどに復習をしましょう。

④復習＝納得してからの解き直し。(ここが一番大変で大切です。)

- ・もらった解答を見て間違いを見つけたら、まず解説をじっくり読むこと。
 - ・もしくは教科書や参考書でしっかり調べること。
 - ・わからなければ教科の先生や塾に必ず質問すること。自分の間違いを正面から受け止め、何をどう間違えたのか確認・納得することです(もちろん上記②番で付けた△印の箇所も)。
- それをせず再度挑戦しても意味がありません。部活動でも同じですね。試合に負けたのに反省も

練習もせず、再度同じ相手に臨んでいるようなものです。また模範解答というのはあくまで模範です。納得したら、数学なら必ず自分の手で解き直しをすること。それをしなければ数学は伸びません。その他、理・社の用語や英単語や漢字など暗記すべきことはその場で覚えることが大切です。

※会場テスト(Wもぎ・Vもぎ)とは？

- ①東京都内で行われ偏差値の出る試験のため、受験生自身の学力状況・推定順位が正確に把握できる。
- ②「W合格もぎ・Vもぎ」とも「都立そっくりテスト(もぎ)」を中心に、名前の通り「都立一般入試」の問題形式・出題傾向・難易度に類似し、「都立一般入試」の擬似体験ができる(時間スケジュールは異なります)。
- ③中学校内の「確認テスト」や塾内での「志望校判定テスト」とは異なり、他校の受験生と机を並べ、入試本番の雰囲気を経験できる。
- ④会場が近隣の私立高校中心に設営されるため、高校内の様子がある程度知ることができる。
- ⑤その結果(偏差値)は私立高校への推薦や優遇を獲得する上で入試相談に使える場合もあり、入試結果に大きく影響する。ですから模擬試験であっても本番同様、全力で取り組んでください。

腰を据えて繰り返していきましょう。特に中3受験生は都立入試まで約4ヶ月です。時間を大切にがんばりましょう！

